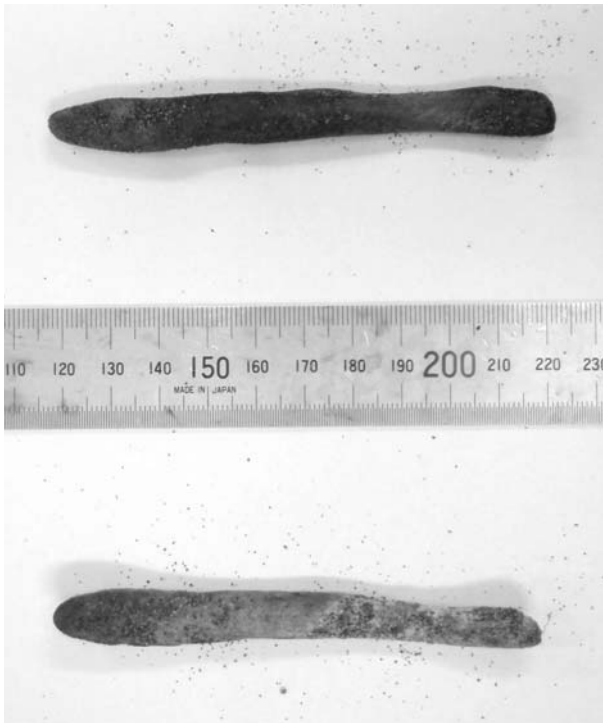
いしかり博物誌 99

イルカの足



ネズミイルカの骨盤骨。大昔、クジラやイルカが四足で陸上を歩いていたころの名残です。資料館で開催中のテーマ展「資料館のお宝2009」では、全身の骨とともに、この骨盤骨も展示しています（3月29日まで）。

イルカにも足がある！

それを知ったのは、ほんの2～3年前、ネズミイルカの解剖を見ていたときのことでした。

イルカやクジラは、大昔は陸上で暮らしていた四足動物ですが、今からおよそ5000万年ほど前から、水中で生活するように進化していきました。体形は水の抵抗の少ない流線型になり、前脚は胸ビレへと変化しました。その変化の証拠として、現在でも胸ビレの中には人間とも共通する腕の骨、指の骨がきちんとそろっています（第96回を参照）。でも、胸ビレから尾の間はつるんとして、足なんて生えていませんが…。足はどこへいったのでしょう？

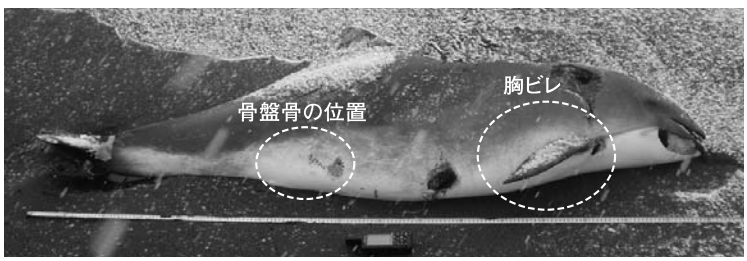
解剖していた大学院生は、イルカの胴体の真ん中あたりの肉を切り裂いて、10cmくらいの長さの棒のようなものを取り出しました。「寛骨（かんこつ）です」。寛骨とは骨盤の骨。クジラやイルカは尾ビレを振って泳ぎます。かつて持っていた足は不要になり、数千万年の間に退化して完全に消えてしまいました。しかし、足がくっついていた骨盤の痕跡は、今でもひっそりと体内に埋もれているのです。

この骨盤骨、現在のほとんどのクジラやイルカの腰のあたりに左右一対あります。陸上動物と違って背骨から完全に離れ、外形には現れていないので、運動の役には立っていません。それでもまだ消えずに残っているのは、体内で生殖器を支える役割があるから、と考えられています。

ところが、本当に「足」のあるクジラやイルカが、ごくまれに発見されることがあります。1919年にカナダで捕獲された体長15mのザトウクジラには、胴体左右に1m以上も突き出た足のような棒状の突起がありました。その内部には大腿（だいたい）と脛（すね）、指の根元にあたる骨があったそうです。日本でも1956年、腰に5～6cmの突起のあるマッコウクジラが捕獲され、大腿と脛にあたる骨が確認されました。こちらは標本も残っています。

さらに2006年には、和歌山県で左右の腹ビレのあるハンドウイルカが捕獲されました。足の痕跡として、棒のような形ではなく腹ビレをもつクジラやイルカが発見されたのは、世界で初めてです。このイルカは現在も飼育され、研究が続けられているそうです。まだまだ謎だらけのクジラやイルカの進化の解明に、大いに貢献してくれることでしょう。

（志賀健司）



ネズミイルカ（漂着死体）。骨盤骨は、胴体のやや後ろ寄り、腹側の左右にあります。外見からは分かりません。

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館
☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

ERIS「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ（http://www.i-eris.tv/）でもご覧いただけます。